

令和 7 年度 学校評価総括表

項目ごとの評価（４段階評価） A：極めて達成度が高い<75%以上> B：おおむね達成できている <50%以上75%未満> C：課題を残している <25%以上50%未満> D：課題が多く速やかな改善が必要<25%未満>									
建学の精神		「正しく強く」「努力が天才なり」						総 合 評 価	
スクールミッション		建学の精神をめざすとともに、グローバル時代に向けて、豊かな教養と情操をもって社会に貢献できる人材を育成します。						B	
令和６年度の成果と課題		スクールポリシー							
諸活動においては目的・目標の達成と、生徒の満足感や充実感の向上を重視しつつ、昨年度確認した改善点等を反映させて取り組むことができた。また、学校行事の見学に来校される保護者が年々増加しており、本校に対する保護者の関心の高まりを感じる機会も多くなっている。行事によっては事前申込制を導入したり動画配信をしたりする方式を確立できたが、次年度に向けては、さらなる工夫の余地と、準備・実施等を含めた効率的な行事運営とのバランスも観点の一つに加えて検討することも課題である。 7年度は創立100周年にあたり、安全安心で快適な学習・生活環境のさらなる充実に向けた施設設備の改良を含め、各種記念事業を検討・計画し、確実に進めていく。	グラデュエーション ポリシー	1 授業を中心とした学習や進学講習、資格検定試験等に取り組むことにより各自の進路実現に向けた学力が身についている。							
		2 課題設定力、情報活用能力、論理的思考力及び言語能力が備わっている。							
		3 自他の人格を尊重し、他者や社会と共生できる能力や態度が身についている。							
		4 新たな価値を創造し、社会に貢献できる資質・能力が身についている。							
		5 奈良大学附属高等学校生としての自覚と責任感が備わっている。							
	カリキュラム ポリシー	1 基礎的な知識と思考力を身につけることをめざします。							
		2 一人ひとりに最適な学習環境を提供し、３年間の学びを見守ります。							
		3 進学講習や各種検定試験受検など、きめ細かい指導で確かな学力を養います。							
		4 ICT教材、外部コンクールへの応募、高大連携行事、外部社会人講師など、多様な学びの機会を積極的に取り入れて、知的好奇心を育み、論理的思考力や表現力の涵養をめざします。							
		5 海外研修旅行、交換留学、語学研修等を実施し、コミュニケーション力やグローバルな価値観を身につける教育を促進します。							
		6 人権尊重の理念を正しく理解させるとともに、社会貢献の精神を育む教育活動を推進します。							
		7 キャリアパスポートを活用して、自分を客観的に見つめ、将来の生き方を考えることを促進します。							
	アドミッション ポリシー	1 奈良大学附属高等学校の建学の精神や教育方針を理解し、本校で学びたい生徒							
		2 知的好奇心をもって、多様な学びに積極的に挑戦していける生徒							
		3 自分の個性を大切にし、他者の個性も尊重し、積極的に協働して問題の解決を図ろうとする生徒							
評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）			評価	成果と課題		改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
指導の重点	基本的生活習慣の確立	・自分一人でも継続的に実践するという強い意志を育むとともに、時間を守る自律的な生活習慣を身につけた生徒を育てる。 （保護者用） ① 基本的な生活習慣や規範意識などについて適切な指導が行われているかどうか。 （生徒用） ② いつも授業の開始と終了時の挨拶を自ら姿勢正して行っているかどうか。			A	・遅刻の理由として時間に対する意識の低さが感じられる生徒に対して、生徒指導部やコース長の指示のもと、担任が中心となって保護者と連絡を密にし、協力を得るなどして改善を図る活動を地道に行った。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」95.3% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」93.9%		・短期間に規範意識を一気に向上させることは現実的に困難を伴う。しっかりと腰を据えて、なぜ時間やルールを守らなければならないのか、「なぜ」の部分を生徒に納得させ理解させるために、注意する際に生徒自身に考えさせながら、各教員が協力して根気強く繰り返し指導することが大切である。	<第三者評価> ・生徒指導について、アンケート結果から良好な指導が行われていると推測される。 ・「すらら」について、生徒の活用が低いのはそれなりの理由があるように思う。しっかりと分析して意味・意義のあるものにしてほしい。
	基礎学力の充実	・進路講習や「すらら」を利用した学習習慣の定着を図り、強い意志で継続させる。 （生徒用） ① 「すらら」を活用できたかどうか。 ② 計画性のある学習習慣が身についているかどうか。			C	・1年生に対してすららタイムを設定し年間を通した活用を図ったが、多くの生徒で利用が単発的となった。課題の出し方や量を調整し、学習に対するモチベーションを高めて自発的な学習習慣の定着につなげる工夫が必要である。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」48.7% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」66.6%		・すららの特長を研究して、それを十分に生かすために課題の内容や時期、量などの配信について、教科担当者だけでなく幅広く学年やコース間で調整し、一部にとどまっている成果を拡大していきたい。	・大学進学だけクローズアップされることなく、「自分はどう生きるのか」という問いに常に向き合う生徒の育成が大切である。とりわけ地域に残り仕事を通じて卒業後も活躍する人材の育成、同窓会等のネットワークの活用などを意識した学校運営を望む。入学前単位修得制度が始まり、奈良大学への進学者も増えてきていることは評価できる。
	個性を活かす進路指導	・各学年における進路行事やLHR、「総合的な探求の時間」などを通じて、自己を振り返り、さらには自らで変革し、将来を展望する機会を増やす。 （保護者用） ① 生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 （生徒用） ② 進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多いかどうか。 ③ 学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。			A	・生徒や保護者に対して基本的な進路情報の提供を機会あるごとに行うことができた。 ・多様な進路目標に対応するため、各教員が最新の進路情報を積極的に取得する必要がある。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.5% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.6% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」86.1%		・生徒一人ひとりの持ち味をどのように進路に生かしていくか、生徒に一番近い存在である担任だけでなく、各教科担当者や部活動顧問など多くの視点から生徒を観る姿勢を各教員が共通認識し、実践していきたい。	・異文化交流等、国際面での取組に注力しているが、より多様な取組に挑戦して生徒の英語力向上に努めてもらいたい。「英語力を高めるなら奈良大附属」と評価されることを強く期待したい。
	国際化、情報化に対応した教育実践	・社会の変化に主体的に対応できる資質・能力の基礎を身につける活動を実践する。 （保護者用） ① 海外からの学校訪問での交流や研修旅行等を通して、生徒の成長が見られているかどうか。 （生徒用） ② 異文化に触れて、相互理解が深まったかどうか。 ③ 以前よりも英語に興味関心を持つようになったかどうか。			B	・オーストラリアへの研修旅行やキャンベラからの訪問校受け入れ、IEE（英語漬け体験）の実施、奈良ロータリークラブ交換留学生の派遣と受け入れを行った。 ・情報社会を生き抜くために情報活用能力の向上は必要不可欠であるが、SNSやスマートフォンの扱い方など、基本的なルールやマナーの指導を必要とする場面が多くあった。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」84.2% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」85.8% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」72.9%		・海外研修旅行や海外からの訪問校受け入れ等、国際面の取組は本校の特色の柱の一つとして高い評価を受けており、今後も質や完成度を高めつつ継続していきたい。 ・情報モラルやマナーに関する講座を1年生時から継続的に設けるなど、高校生活の早い段階で倫理観と意識を高め、正しい知識と行動を定着させ浸透させていく必要がある。	

担当	評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）	評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
総務部	学校管理	校内美化の徹底 教室等の点検と設備保守	・校内美化への意識を高めるため、週に1回ホームルーム教室以外の場所を清掃する。 ・各教室等の設備点検を行い、必要に応じて修繕を行う。 （保護者用・生徒用） ① 教室や廊下等の校内清掃や美化に取り組んでいるかどうか。 ② 学校の施設・設備は充実しているかどうか。	A	・アンケート結果では、「校内清掃や美化に取り組んでいる」、「施設・設備が充実している」と回答した割合が高く、特に保護者からは高い評価を得ることができた。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」保護者97.4%、生徒83.9% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」保護者92.7%、生徒84.0%	・清掃や点検に対する共通理解を深めるとともに、チェック体制の充実や迅速な修繕対応を行い、より快適な学校環境づくりを進めていく必要がある。	<学校関係者評価> ・研修旅行の費用が高いので奈良大附属を希望しなかったという家庭があり、経済状況によって参加できない生徒も出てくると思う。教育の機会として全生徒が参加できるように検討いただければと思う。
	研修や行事	研修旅行の円滑な運営 各式典の円滑な運営	・校外での集団活動を通して、生徒による自主的・実践的な取組が行われるよう、十分な生徒理解に基づき当該学年とともに調整を行う。 ・学年や各部署と連携をとりながら、各式典が円滑に運営されるよう計画し、実行する。 （保護者用・生徒用） ① 研修旅行等の学校行事で、人生の役に立つ様々な体験ができるかどうか。	A	・校外での集団活動を通じて、生徒は主体的に行動する力や実践的な力を身につけることができた。一方で、各活動の目的や意義については、今後さらに理解を深められるよう工夫していく必要がある。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」保護者96.1%、生徒94.8%	・校外活動では事前に活動内容や目的を分かりやすく説明し、その意義を生徒自身が十分に理解し主体的に行動できるよう支援する。また、学年や関係部署と連携し、計画的に支援の時間を確保する。 ・活動後に振り返りの機会を設け、得た経験を日常生活や将来にどのように生かせるかを考えさせる。 ・式典当日は役割分担を明確にし、事前にシミュレーションを行ってトラブルを防ぎ、行事内容の充実を図る。	
	安全管理	防災訓練への取組	・校内の防災設備の点検・確認とともに、生徒一人ひとりが災害時における行動について知識を深め、適切な行動がとれるように訓練をする。 （保護者用・生徒用） ① 生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているかどうか。	A	・防災訓練を行ったことで、生徒の災害に対する意識は高まった。今後は、さまざまな災害を想定した、より実践的な訓練を取り入れていく必要がある。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」保護者91.5%、生徒87.9%	・防災訓練の回数を増やすとともに、想定する災害の種類を広げた訓練を実施し、実際の場面に即した対応力の育成を図る。 ・生徒一人ひとりが災害発生時の行動を確実に理解できるよう、繰り返し学習の機会を設ける。	
教務部	学習指導	指導と評価の一体化をめざした評価方法の充実	・学習評価を通じた学習指導の在り方の見直しや個に応じた指導の充実 ・きめの細かな指導の充実や生徒一人ひとりの学習の確実な定着 ・学習指導要領に示す目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価の確立 （生徒用） ① 授業は分かりやすく、個々の質問にも丁寧に対応してくれるかどうか。	A	・8割を超える生徒が、授業はわかりやすく、個別指導等の丁寧な指導が行われていると感じているのでAとした。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」82.9%	・教師自身が自らの指導に関する姿勢を常に客観に見つめ、機会をみて自己研鑽を積み、また最新の情報に触れるなどして、さらにそれを高めるべく努力する。	<学校関係者評価> ・アンケート結果から、授業でICT機器の活用がなされていることがよくわかるが、一方で「すらら」との連携ができていないのが気になるところである。
		授業改善と指導力の向上	・生徒の深い学びや学習内容の定着に向け、授業改善に努める。 （生徒用） ① 基礎的な学力・知識が身についているかどうか。 ② 授業は、新たな知識を得たり、疑問を解決したりするために役立っているかどうか。 ③ コンピュータや情報通信機器（ICT）を活用した授業が行われているかどうか。	A	・概ね、生徒は学力が身についていると実感しているようであり、学習活動に意義を見出していると思われる。また、教員の教える姿勢にも対応にも丁寧さを感じている。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.4% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」89.1% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」84.3%	・「丁寧な指導」はややもすると生徒にとって受動的な学習態度に結び付きやすい。生徒自らが能動的に学び、学んだことをさらに発展的に次の学習につなげるサイクルを生み出せるような働きかけ心がける。 ・ICTを活用した学習活動は、教員自身が主体性をもってその活用に関する知識をアップデートし、実践的な経験を重ねる。	
生徒指導部	生徒指導	規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立	・集団生活のマナーやルールを理解させるとともに基本的な生活習慣を確実に確立させるよう指導する。 （保護者用） ① 基本的な生活習慣や規範意識などについて適切な指導が行われているかどうか。 （生徒用） ② 学校では、生活面の指導が適切に行われているかどうか。 ③ 教室や廊下等の校内清掃や美化に取り組んでいるかどうか。	A	・美化に関しては、教室だけでなく、一斉清掃日を設けることで学校全体の美化への意識向上が図られている。生活習慣や規範意識向上のために、もっと美化意識やマナー・モラルの向上を働きかけた。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」95.3% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」87.0% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.9%	・マナーやルールの遵守に関しては、日々の声かけが重要である。生徒にしっかりとそれらを伝えるためにも、教職員が日々の生徒との学習や、生活の中でその重要性を意識していきたい。 ・美化については、学びにふさわしい環境づくりという視点、そして地域に愛される学校に向けて取り組んでいく。	<学校関係者評価> ・"正しく、強く"は大事であり、生徒に寄り添う指導とともに、芯のある人間育成のために丁寧な指導を求む。 ・地域の方からの苦情に対して、すぐに対応していただいていることに感謝している。
		いじめの指導	・いじめアンケート等を通して、いじめ事象の早期発見・解決を図る。（いじめ問題認知率100%） （保護者用） ① いじめを許さない取組が適切に行われているかどうか。	A	・いじめに関しては、アンケート実施後も随時、追跡調査と観察を重ねその情報の共有を行っている。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」85.9%	・いじめは常に起こるものと考え、定期的に追跡調査と日ごろより目を配り声かけを行う。	<第三者評価> ・いじめを許さない取組については、学校のいじめ問題への対応がもっと生徒にわかりやすいものとなれば「そう思う」の回答が増えるのではないかと思う。
		教育相談・特別支援教育等	・不登校や配慮を要するまた多様な悩みをもつ生徒に関する情報収集と対応を協議するとともに、教育実践の改善につながる職員研修の充実を図る。	A	・教育的配慮が必要な生徒についての、ケース会議や教員研修を行うことで、理解を深めた。	・教育相談係と養護教諭、そしてスクールカウンセラーとの連携を深める。また職員研修などを今後も実施する。	
人権教育部	人権教育	人権感覚を磨き人権意識を高める。	・人権教育に関する指導計画を作成し、人権教育活動を活性化する。	A	・概ね計画通りに人権教育活動を行うことができた。	・今年度以上に工夫を凝らして、人権教育活動をさらに活性化させたい。	<学校関係者評価> ・配慮が必要な生徒に対しては引き続ききめ細やかな対応をお願いしたい。
	進路保障と人権啓発	進路保障への取組を推進するとともに生徒の自主活動を支援する。	・受験等に関わる不適切な事象に対応するとともに人権研究部の活動を促進する。 （保護者用） ① 進路保障への取組や啓発文書などを通して、適切な人権教育が行われているかどうか。 （生徒用） ② ホームルームなどで自分の生き方や在り方について考えることができるかどうか。	B	・人権教育部による「ひゅうまんらいつ」を各学期末に配布し、人権啓発の意識を高めた。 ・校内一斉人権教育ホームルーム等を通して、人権に関する様々な課題について当事者意識を持たせながら進めることができた。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.2% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」80.8%	・人権教育に関する教育内容やテーマについてさらに検討して、今年度以上の評価が得られるよう努力したい。 ・人権教育に関するホームルームの時間を増やせるよう努力したい。 ・保護者に向けてもさらに発信していきたい。 ・人権研究部の新入部員を獲得したい。	<第三者評価> ・インクルーシブ教育の充実が求められることも多く、内部体制の整備や委員会設置など検討が必要ではないかと思う。

担当	評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）	評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
保健体育部	保健・体育教育の充実	運動能力と技術の向上	・運動が苦手な生徒への個別指導を強化するため、レベル別のグループ分けを試行し、一人ひとりの課題に合わせた指導を充実させる。個々の生徒に授業を振り返らせる機会を設け、定期的なフィードバックを実施する。	B	B	・毎授業後、振り返りシートを導入したことで、生徒が自身の身体の動きや課題を言語化する習慣がついた。 ・レベル別グループ分けは、全グループを把握するには物理的な限界があり、結果として一斉指導の形態に頼らざるを得ない場面が多く見られた。	・相互評価の導入 教員が一人で全員を見るのではなく、生徒同士がアドバイスし合えるチェックリストを作成し、「教え合い」を通じてレベル別指導を組織化する。	<学校関係者評価> ・学校生活を楽しみながら各種活動に取り組んでいる姿がうかがえる。 ・生徒が支えあうことも大事だが、切磋琢磨する場や状況が適切に与えられることも大事だと考える。
		健康・安全に対する知識と意識の向上	・健康に関する知識を深め、健全な生活習慣を促すため、感染症予防、心の健康、そして体力維持・向上をテーマにした「保健だより」と「体育だより」を毎月発行する。 （保護者用） ① 生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているかどうか。 （生徒用） ② 生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているかどうか。	A		・「保健だより」と「体育だより」を毎月発行することができた。各記載内容が生徒のセルフケア意識を高める一助となった。 ・発行・配布が中心となり、生徒が内容をどの程度理解し、実際の生活習慣をどう変容させたかという実態把握（アンケート等による効果測定）が十分ではなかった。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.5% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」87.9%	・生徒参加型の企画 保健委員や体育委員によるコラム掲載や、生徒からの質問に答えるコーナーを設けるなど、より当事者意識を持てる紙面づくりをめざす。	
		スポーツマンシップと協調性の育成	・体育祭や球技大会の企画・運営に生徒に関わる機会を増やし、一人ひとりの主体性を引き出す。また、部活動を活性化させ、学校全体で「チーム奈良大」としての意識を醸成する。	B		・体育祭及び球技大会後のアンケートでは、生徒から非常に高い満足度が得られた。特に競技内容の充実や、当日の盛り上がりは学校全体の活力となった。 ・行事の満足度は高いものの、依然として教員主導の企画に沿って生徒が動く「受動的な関わり」が中心であった。企画段階から生徒のアイデアを反映させる機会をさらに増やす必要がある。	・生徒企画枠の創設 体育祭等の種目の一部を「生徒公募制」にするなど、企画のゼロ段階から生徒が参画できるプロセスを導入する。	
進路指導部	進路指導	進路実現に向けて	・生徒の進路実現に向けて、学年・コースに応じた学力養成のための指導を実施する。また、キャリアパスポートを活用して、自己を客観的に見つめ、将来の生き方を考えさせる。 （保護者用） ① 生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 （生徒用） ② 進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多いかどうか。 ③ 学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。	A	A	・始業式と終業式でキャリアパスポートに取り組むという仕組みは確立できている。次年度は実施方法を変え、さらにキャリアパスポートを充実させるよう改善していきたい。 ＜アンケート結果＞ ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.5% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.6% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」86.1%	・生徒の進路実現に向けて、生徒自身に考えさせる取組をさらに充実させる。	<学校関係者評価> ・文系志向にとって奈良大学は選抜校に入るが、理系志向には難しい。とはいえ生徒本人の意向に沿って最良の結論へと導いていただきたい。 ・進学、就職ともに"何のため""目標"を考えさせる指導の充実を求め
		奈良大学との連携	・奈良大学ガイダンスをはじめ、奈良大学との交流を活発にすることにより、附属高校である良さを伝える。さらに、生徒には日頃から、保護者には保護者会などにおいて、奈良大学の魅力を発信する。 （保護者用） ① 奈良大学との連携についての取組が行われているかどうか。 （生徒用） ② 奈良大学についての情報が十分に提供されているかどうか。	A		・今年度は、奈良大学ガイダンスだけでなく、2年生が奈良大学見学会を実施し、講義を見学・体験した。また、総合的な探究の時間でも奈良大学にて活動をした。 ・1年生の保護者会や育友会の行事も奈良大学で実施した。次年度もさらに大学との連携を深めていきたい。 ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」98.1% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.3%	・奈良大学ガイダンスなどの行事を通し、奈良大学の魅力を伝えていきたい。 ・奈良大学との連携を深める手立てをさらに考えていくと同時に、教員の意識向上にも努める。	
文化図書部	読書啓発	読書活動の啓発	・「図書館だより」を年3回発行する。 ・夏期休業中の課題として読書感想文の提出をする。 ・定期的に行事等に合わせたテーマを設定し、関連する本を展示する。 ・読後のポップ作成を促し、作品は図書館に掲示する。	B	A	・「図書館だより」は年5回発行できた。 ・1年生に課した読書感想文の最優秀作品が、奈良県高等学校図書館研究会賞を受賞した。 ・1年生の学年行事である「ビブリオバトル」がきっかけで、利用者数・貸出冊数が急増した。 ・定期的に図書館入口でテーマ展示を行った。 ・オーストラリアからの土産の展示スペースを設けた。	・「図書館だより」を月1回のペースで発行できるようにする。 ・「ビブリオバトル」関連の展示スペースを造り、全校生徒の読書活動の啓発に力を入れる。	<学校関係者評価> ・読書の習慣もつけてもらいたい。 ・文化的な面で学校の地の利を生かして地元の方や奈良大学などと連携し、文化財保護・紹介などの活動に結びつけ、さらには奈良大学に進学して活動を継承するという形ができればうれしい。
	図書館の活用	授業や総合的な探究の時間での蔵書の活用	・レファレンスに力を入れ、利用者が求める資料の検索・提供に努める。 ・探究活動の一助になるような蔵書の購入・提示を行う。	A		・3年生専用の自習スペースを授業でも活用し、小論文指導やグループ学習等を行った。 ・研修旅行先のオーストラリアについてのテーマ展示を行い、探究活動等で利用しやすいように工夫した。	・学年行事やコース・学年の探究活動等の内容に即した展示を随時取り入れる。	
	海外留学	海外留学の機会の提供 留学生の受け入れの推進	・ロータリークラブ主催による青少年交換プログラムに積極的に参加し、次世代グローバルリーダーの育成と国際理解の推進をめざす。	A		・今年度は本校生1名をスイスへ派遣し、交換留学生1名を受け入れることができた。	・留学希望者やホストファミリー希望者がたくさん出るように、広報活動をしていきたい。	
	文化的意識	生徒に外国の文化規範や言語に触れさせる。	・IEE（英語漬け体験）などの機会を設け、英語の学習意欲を向上させる。 ・海外から本校への学校訪問を受け、生徒たちに様々な交流の機会を与える。 （保護者用） ① 海外からの学校訪問での交流や研修旅行等を通して生徒の成長がみられるかどうか。 （生徒用） ② 異文化に触れて、相互理解が深まったかどうか。 ③ 以前よりも英語に興味関心を持つようになったかどうか。	A		・10月にオーストラリアから「アマルススクール」・「ゴールドクリークスクール」の2校が本校へ来校し、体育祭参加や授業・クラブ体験等の交流を行った。 ・今年度は2年に1度のIEE（語学プログラム）を実施し、多くの生徒が異文化に触れることで相互理解が深まったと回答した。 〈アンケート結果〉 ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」84.2% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」85.8% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」72.9%	・来年度は、長期休暇を利用した短期留学を推奨することにより、生徒一人ひとりが異文化に直接触れる機会を増やしたい。 ・来年度も10月にオーストラリアの学校が来校予定なので、生徒たちにとって貴重な国際交流体験となるようサポートしたい。	

担当	評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）	評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
生徒会指導部	体験活動と社会貢献	多様な体験活動を充実させ、豊かな人間性や社会性を培う。	・保育体験活動の充実と、各種社会貢献活動への積極的な参加を促す。	B		・子ども服を集めて難民キャンプに届ける活動を通して、平城中学校生徒会、平城小学校・西大寺北小学校児童会と交流することができた。また、同活動において、平城こども園・奈良大学附属幼稚園とも連携することができた。 ・発送作業では、近隣の東大寺学園高等学校および関西文化芸術高等学校生徒会とも交流する機会を得た。 ・附属幼稚園での保育体験では、7月に53名の生徒が参加し、進路目標の設定につながった。 ・7月および12月にユニセフ街頭募金活動に参加した。	・令和7年度の活動を基盤として、平城地区の各団体、ユニセフ奈良県協会、ならイズムを主催する奈良商工会議所青年部との連携を今後さらに深めていきたい。	<学校関係者評価> ・生徒会活動では子ども服を集める活動に協力させていただいた。今後も引き続き各種社会貢献活動に取り組んでほしい。 ・子ども服を集めて難民キャンプに届ける活動については、地域の学校園とも連携してつながりを深め
	生徒の主体的活動の充実	環境に適応し、行事や部活動への積極的参加を促し、人間関係を築く力や自立して生活する態度などを育成する。	・山陵祭（文化の部・体育の部）などを通じて、生徒自身が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組む場面を作る。	B	B	・文化の部では、大学講堂において全日の舞台発表を実施することができた。発表団体は部活動・クラス・有志など多岐にわたり、総合的探究の発表から合唱まで、幅広い内容であった。 ・体育の部では、事前に団体競技の練習に取り組むクラスもあり、特に3年生を中心に、生徒同士が協力し合う姿が多く見られた。	・文化の部は食品バザー等の模擬店に依存するのではなく、舞台発表や展示・研究発表が中心となるよう、発表内容の質的向上を図る取組を継続する。生徒が主体的に企画・準備に取り組めるよう支援し、より充実した発表の実現をめざす。	ており、素晴らしい活動だと思う。 <第三者評価> ・附属幼稚園での保育体験に多くの生徒が参加したのは素晴らしいことだと思われる。 ・地域と連携して子ども服を難民キャンプに届ける活動は、SDGsの推進など大変有意義な活動である。地域の子どもたちにとっても親しみやすい高校として奈良大学附属高校の存在が身近になるのではないかと思う。
		委員会活動の活発化 生徒の自主性や自律性の育成	・全学年の絆を深化させるため、生徒会役員と各委員会が連携をとりながら、各学期に1回以上の委員会活動に取り組む。	B		・子ども服を集めて難民キャンプに届ける活動では、これまで生徒会役員のみで行っていた仕分け・箱詰め作業を、今年度は生徒会と生活委員会さらに近隣の高等学校と協力して実施することができた。今後は各委員会で役割を話し合い、主体的に実行していく必要がある。 ・生徒会主導で各委員会のさらなる活性化を図り、活動内容の周知を進めていきたい。 ・女子生徒の制服についてパンツスタイル、ポロシャツ、ハーフパンツスタイルの導入を要望したが、今後検討が十分になされるよう、導入に向けて前向きに推進したい。	・女子生徒の制服については、生徒一人ひとりの人権を尊重し、ジェンダーに基づく固定的な役割意識を見直すとともに、多様な価値観や生活実態、心身の健康や安心して学校生活を送る権利に十分配慮する観点から、パンツスタイル、ポロシャツ、ハーフパンツスタイルの導入を含めた具体的かつ実効性のある検討を学校として早急に進め、明確な方針および結論を示す必要がある。	
入試・広報部	広報活動	生徒募集にかかわる広報活動	・生徒募集について、受験生及び保護者、また中学校や塾に対する広報を行い、定員充足に努める。	B	B	・オープンキャンパス、入試説明会、個別相談会等の生徒募集に係る学校行事について、いずれの行事でも多数の参加者があり、広報活動として一定の成果があった。また、出願においても、昨年度に引き続き推薦・専願試験の出願の割合が高く、本校に対する積極的な反応を感じられた。ただし、コースによって定員充足を満たせていない点は次年度に向けた課題である。	・次年度の生徒募集に向けて、受験者や保護者の高校進学に関するニーズを分析しながら積極的な広報活動を展開する。また、広報に関する学校行事について、本校の魅力をダイレクトに伝える機会である生徒募集に係る行事のコーディネートを行う。さらに、広報の手段について、媒体の選定等、より効果的な方法を検討していく。	<学校関係者評価> ・学校訪問時に生徒や教職員の皆さんの生き生きとしたようすを目の当たりにし、とても好感が持てた。これも素晴らしい広報活動だと思う。
情報部	情報管理・提供	情報の作成・管理	・学校法人奈良大学個人情報取扱規程に基づき、個人情報を適正に取り扱い、その保護を図る。 ・データファイルの作成・処理・管理を適切に行う。 ・ChromebookとGoogle アカウントの一括管理を行う。	A		・他の分掌や事務などと関わるデータ処理や管理を適切に行った。 ・在校生のGoogleアカウント管理、Chromebook配布、破損による修理依頼などを適切に行った。	・様々な業務をしっかりと他分掌と協力しながら進めていく。	<学校関係者評価> ・ホームページの充実が図られることで、それを見て、奈良大附属に興味を持つ中学生も出てきている。
		情報の提供	・本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供を担うホームページの一層の充実を図る。 ・ライデンスクール（メール）を通じて、有益な情報を生徒・保護者に配信する。 ・教職員に対して、ICT活用推進に関する情報発信や研修等を適宜行う。 （保護者用） ①学校のホームページから最新の情報や必要な情報を得ることができるかどうか。	A	A	・ホームページは本校の魅力が際立つように、見出しやバナー等の工夫を凝らした。また新着情報や行事紹介、「活動報告」の項目も新たに設けた。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」90.3%	・前年度比（88.9%）でアンケート結果は良い評価を得た。今年度中のホームページの大幅な更新を行う予定であり、受験生や外部の方に対しても、学校の魅力を知ってもらうためにホームページの充実をより一層図る。	
		各授業・行事における準備と進行	・授業で利用するICT機器・周辺機器の設定・管理を行う。 ・オープンキャンパスや入試説明会などで、必要に応じてYouTubeを利用したライブ配信などを行う。	A		・トラブル時にも即時対応できる体制をとっている。 ・各行事において適宜対応した。	・アクセスポイントの入替など業者を交えて適宜更新していく。 ・体育館の空調整備完了に伴い、プロジェクターの使用頻度も高くなることも踏まえ、取替を予定。	
事務室	施設・設備	学校教育環境の整備	・学校教育環境施設の整備や補修を計画的に行う。	B	B	・令和6～7年度に熱中症対策として、武道場・体育館に空調設備を整備、令和5～7年度に建物ごとに照明をLEDに更新。	・令和8年度中に、校内すべての照明をLEDに更新していく。	<学校関係者評価> ・地域の二次避難所となっており感謝している。
	予算の立案・執行	予算の適正な執行	・原材料価格の上昇や燃料高騰による光熱水費等の節約に努める。	B		・LEDに更新したことで今後製造・輸入ができなくなる蛍光灯の購入費用を抑えることができた。	・光熱水費の高騰もあり、学校全体として節電に努めるよう協力を要請する。	

担当	評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）	評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
特 進 コ ー ス	生徒指導	「心ある頭脳」の育成をめざす。	・「挨拶」「素直」「感謝」「笑顔」を基本とした生徒指導を展開していく。 （保護者用） ①家庭との連携がとれているかどうか。	A	B	・生徒が心ある頭脳になるために、学校だけの教育ではなく、家庭との連携によって双方向からの教育ができていることがわかる。今後もさらなる協力体制を作っていく。昨年度よりも評価は高い。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」93.5%	・人としての成長も学力の向上も、基本的な生活習慣の確立なしでは達成できないものである。そしてそれは、家庭の協力が必要不可欠である。欠席者への連絡だけでなく、何気ない日常の様子を伝える連絡をするなど、さらに家庭との連携を深めていく必要がある。	<学校関係者評価> ・標準コースの生徒については、基礎学力の定着を重視し、学ぶ意欲の向上のために様々な取組を我慢強く指導いただいている。 ・計画性のある学習習慣が身についているかがやや低い結果となっているが、正直な気持ちが反映されていると思われる。何か目標を持てるように保護者からも子どもたちの背中を押してあげることも必要だと思う。
	学習指導	基礎学力の定着及び学習習慣の確立を図る。	・授業、朝学習並びに講習に計画性のある学習習慣を身につける。 ・1年次で準2級、2年次で2級合格をめざす。 （生徒用） ①計画性のある学習習慣が身についているかどうか。	B		・昨年より改善できているように思う。朝学習や講習等で学校での学習習慣は確立できているが、家庭での学習習慣がまだ身についていない生徒が多いことがわかる。昨年度よりも評価は高い。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」63.2%	・進学意識が高い生徒はいるが、低い生徒も増えてきているように思う。 ・自学自習の意識づけを強化する。 ・英検の指導は今後も継続していく。	
	進路指導	挑戦&合格できる力を身につける。	・生徒の進路実現に向けて、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 （保護者用） ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 （生徒用） ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。 ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。	A		・大学受験では正しい情報が不可欠となるので、進路指導部と連携し、大学関係や学習方法などの情報があるたびに生徒に伝えている。3項目全てにおいて昨年度よりも評価は高い。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.0% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.7% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.7%	・大学情報や入試情報は、進路指導部から連絡があるたびに生徒に伝えているので、それが評価されていると感じている。これからさらなる工夫をしながら、生徒に情報を提供していく。 ・積極的に国公立大学に挑戦しようとする生徒が増えてきたので、指導を継続していく。	
文 理 コ ー ス	生徒指導	多様性を認め、家庭と連携を密にし規範意識の醸成に努める。	・家庭との協力体制を構築し、さまざまな問題を抱える生徒を支援する。 （保護者用） ①家庭との連携がとれているかどうか。	A	A	・生徒への日常的な働きかけを通じて教員の生徒理解と生徒の規範意識の醸成につながった。 ・家庭との協力体制構築も連絡を密にすることでスムーズに行えた。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」90.6%	・生徒への声かけや定期的な面談を通じて生徒理解を進め、家庭との連携強化とより良い指導につなげていく。	
	学習指導	基礎学力の充実並びに志望校実現に向けた学力の向上を図る。	・授業を中心に据えて、各種検定講習に取り組む自主性を培う。 （生徒用） ①計画性のある学習習慣が身についているかどうか。	B		・朝学習や積み重ね学習（終礼後実施）、講習等で学校での学習習慣は確立できているはずだが、家庭での学習習慣がまだ身についていない生徒が多いことが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」63.1%	・授業や検定対策などの進学講習、アダプティブラーニングの活用などを軸に、生徒の自学自習力構築に努める。	
	進路指導	得意分野を生かした進学方法を選択し、進路実現を図る。	・生徒の進路実現に向けて、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 （保護者用） ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 （生徒用） ②進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多い。 ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。	A		・大学受験では正しい情報が不可欠となるので、進路指導部と連携し、大学関係や学習方法などの情報があるたびに生徒に伝えている。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」90.8% ②「そう思う」「どちらかといえばそう思う」84.1% ③「そう思う」「どちらかといえばそう思う」85.0%	・生徒の適正に応じた進路指導を行い、情報収集から進路実現までを生徒自らも考え行動できるよう指導していく。	
標 準 コ ー ス	生徒指導	徳育の推進	・自己理解を深め、他者と協調することができる態度を身につけることで、円滑な人間関係を構築し、充実した学校生活が送れるように支援する。 （保護者用） ①家庭との連携がとれているかどうか。	A	A	・自己理解を深めるためには様々な体験、協働作業などの機会や自分を見つめなおすことが必要である。学校生活での経験を家庭で省みるなど、家庭との連携は不可欠であり、今後もさらなる協力体制を作っていかなければならない。 <アンケートの結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.5%	・生徒一人ひとりが様々な背景をもって入学しており、支援計画の作成などの必要な生徒も近年増加してきている。まずは学校生活がうまく軌道にのるよう行事などを活用し、仲間づくりや居場所づくりももちろんだが、日々の声かけや細かな目を持って指導に臨んでいきたい。	
	学習指導	基礎学力の定着と向上	・授業を大切にする姿勢を養い、振りかえる機会を設けることで、学力の定着を図る。 ・ICT教育、対話的な教育などを積極的に取り入れ、生徒の興味関心を引き付ける授業を展開する。 （生徒用） ①計画性のある学習習慣が身についているかどうか。	B		・予想より低い割合であった。朝学習、資格などでの学習への意識向上は図ってきた。しかし、考査前以外での家庭での学習習慣がなかなか身につかない。学習の必要性をもっと理解させていきたい。 <アンケートの結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」70.5%	・授業運営についての見直し、中学校以前の基礎学力を高める必要がある。すららなどを活用し、学力の向上と習慣を身につけさせていきたい。	
	進路指導	生徒のニーズに合わせた進路指導	・生徒の進路実現に向けて、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 （保護者用） ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 （生徒用） ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。 ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。	A		・進路に向けて正しい情報とその管理が必要となってくる。進路部と連携し、入試やその対策、そして、それらの情報を保護者と生徒と共有していきたい。 <アンケートの結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」92.6% ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」83.2% ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」87.9%	・進路に向けて、進学先の情報を得ることも必須であるが、なりたいたい自分や、将来にやりたいことなど、やりがいや人生設計を考えるよう指導していきたい。	

担当	評価項目	目標（評価小項目）	具体的方策（評価指標・観点）	評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価・第三者評価
第一学年	生徒指導	基本的生活習慣を身につける。	・基本的な挨拶（おはよう、ありがとう、さようなら）の心がけと実施（一日に1回以上はクラスメイトや教員と言葉を交わす） ・遅刻の数を減らす （生徒用） ① 教員とのコミュニケーションは充実しているかどうか。	A	A	・生徒一人ひとりへの声かけを増やし、話しかけやすい雰囲気をつくることが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」90.0％	・毎日の生徒一人ひとりへの声かけはもちろんのこと、定期的に二者面談を実施し、生徒の家庭生活、学校生活の様子を把握し、指導につなげていく。 ・教科担当との連携も強め、情報を共有していく。	<学校関係者評価> ・授業のわかりやすさや丁寧な指導については各学年80％を超える肯定的な回答があり、授業力の良さを感じられる。 ・学校の各取組が進路や人生の糧になると高評価につながっていると思われる。 <第三者評価> ・アンケート結果からも教員とのコミュニケーションが十分に取れている様子がわかる。
	学習指導	自学自習、家庭学習の習慣を身につける。	・朝学習や家庭学習の中での「すらら」の活用率を上げる。 ・スタディサポートで、第1回目よりも1ランク以上上げる。 （生徒用） ① 授業は分かりやすく、個々の質問にも丁寧に対応してくれるかどうか。	A		・教員自身が研鑽を積み、生徒の様子をよく見て授業を進めることが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」84.7％	・基礎学力をつけ、自分のペースで力を伸ばし、自ら学べることの楽しさを実感させるためにも、「すららタイム」を大いに活用したい。	
	進路指導	キャリア教育	・各授業やLHR、課外活動を通して、生徒たちに自分の将来について考える機会を多くつくる （生徒用） ① 学校行事は、自身のキャリア形成の一端となっているかどうか。	A		・教員が様々な場面で将来の話をし、生徒たちに自分の将来を自分ごととして考えさせることが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」91.1％	・「夢ナビプログラム」なども活用し、また、学年集会の中でも、将来について考える機会を持ちたい。	
第二学年	生徒指導	教員と生徒とのコミュニケーションを通して信頼関係を構築する。	・学期中に各生徒と最低2回の1on1ミーティングを行う。 ・コミュニケーションツールを活用し、保護者への情報共有を週に1度のペースで行う。 （生徒用） ① 教員とのコミュニケーションは充実しているかどうか。	A	A	・生徒一人ひとりに寄り添った雰囲気を醸成し、日常の変化に気づき、対応していくことが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」88.9％	・教室内で挨拶を交わし、日常の会話を通じて生徒の興味関心や困りごとを知り、信頼関係を築く。 ・生徒の努力を認め、協力に対して感謝の意を表明することで、ポジティブな気持ちを生み出して信頼関係を強化する。	
	学習指導	一人ひとりのニーズに合わせた学習指導をめざす。	・教科会議等において、情報共有・再確認を行い、授業における指導に役立てる。 ・ICT学習ツールを軸として、週に2回の家庭学習課題を与え、ICT利用率を90％以上にする。 （生徒用） ① 授業は分かりやすく、個々の質問にも丁寧に対応してくれるかどうか。	A		・目標は肯定的な意見が90％以上であり、その目標に達成するには、生徒達に問題が解けたときの喜びや達成感を与えることが課題である。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」81.3％	・ビジュアルエイドやデモンストレーションを通じて、抽象的な懸念を視覚的に補充し、理解を促進する。 ・資料や参考文献、オンラインリソースなどを積極的に提供し、生徒が自主的に復習や理解を深められるようサポートする。	
	進路指導	生き方を考える。	・オープンキャンパスや教育講演会等への参加を促すとともに、キャリアパスポートを活用して自身の変容や成長を自己評価する。 （生徒用） ① 学校行事は、自身のキャリア形成の一端となっているかどうか。	A		・目標ラインは肯定的な意見が90％以上であり、達成するには、生徒達が自分自身の未来を語るようになることが課題である。 ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」90.4％	・キャリア形成に関連する各業界の関係者を学校に招くなどし、生徒に最新情報やキャリアに関する洞察を提供する。 ・大学とも連携して進路について考える選択肢を増やしたい。	
第三学年	生徒指導	自己実現にむけて、社会性を身につける。	・主体的に行動し周囲に配慮した言動をとることができる。 （生徒用） ① 教員とのコミュニケーションは充実しているかどうか。	A	A	・生徒が教員に対して相談や質問をしやすいつきを感じられる環境づくりが求められる。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」93.6％	・毎日の生徒一人ひとりへの声かけはもちろんのこと、定期的に二者面談を実施して生徒の家庭生活や学校生活の様子を把握し、指導につなげていく。 ・教科担当との連携も強め、情報を共有していく。 ・休み時間や授業後などの短い時間を活用して、気軽に話しかけられる環境を意識的に作る。	
	学習指導	探究活動を通して、自主的な学習態度を育成する。	・主体的に学習に取り組み、人生と学びを結び付けて、探究していく姿勢を養う。 （生徒用） ① 授業は分かりやすく、個々の質問にも丁寧に対応してくれるかどうか。	A		・生徒一人ひとりの理解度や反応に目を配りながら、柔軟に授業を展開することが求められる。 <アンケート結果> ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」82.7％	・教科指導力や生徒理解を深めるため、定期的に外部研修や校内研修に参加し、新しい指導方法や教育理論を学ぶ機会を設ける。特に、アクティブラーニングやICT活用に関する研修を取り入れ、現代の教育ニーズに対応した授業設計を学ぶ。	
	進路指導	進路実現に向けた指導の充実を図る。	・になりたい自分に近づいていくために、探究し続ける姿勢を身につける。 （生徒用） ① 学校行事は、自身のキャリア形成の一端となっているかどうか。	A		・生徒が自身の将来について主体的に考えるきっかけを提供する必要がある。 ①「そう思う」「どちらかといえばそう思う」89.8％	・学校行事や進路ガイダンスで配布する資料に、具体的な職業や進学先、必要なスキルなどを記載し、生徒が将来の選択肢を明確にイメージできるようにする。さらに、ICTを活用した進路情報の共有（例：職業適性診断ツールや進路情報アプリの活用）も推進する。	